

各部局等における教員個人評価の集計・分析並びに自己点検評価（平成 23 年度分）

部局名：高等教育開発センター

1. 個人評価の実施状況

1) 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率

対象者教員数：2人

実施数：2人

実施率：100%

2) 教員個人評価の実施概要

→ 添付資料（個人評価に関する実施基準、別紙様式 1～3）を参照のこと

2. 評価領域(教育, 研究, 国際・社会貢献, 組織運営)

*以下について、本センターは、実績集計（点数）方式ではなく、記述式評価方式なので、総括的に記述する。

(1) 教育の領域

学部の専任教員とは異なり、当センター専任教員は当部局での授業担当はないが、教養教育運営機構や文化教育学部の開設授業を担当している。このような教育現場での実務はセンター業務の遂行に役立つものと考えられ、教育活動を継続していることは高く評価できる。また、ネット授業等の ICT を活用した特色のある教育活動にも取り組んでいることが評価できる。

(2) 研究の領域

研究に必要な時間を十分に確保できない状況であるにもかかわらず、研究活動が継続されており、また、科研費は継続しているという観点で成果があがっていると評価する。可能な限り、成果を論文形式で公表することが期待される。

(3) 国際・社会貢献の領域

文部科学省事業や教員免許更新講習等の社会貢献が評価できる。しかし、国際貢献に関する取組はなく、学会開催や参加といった国際交流に結びつく活動を期待する。

(4) 組織運営の領域

センター教員は、様々な全学的委員会の委員として重要な役割を果たし、また、ICT 教育

に寄与しており、大学全体の教育改善ならびに大学評価に多大な貢献をしていると評価できる。

(5) センターの業務に関する領域

今年度も当センター教員が専門委員長を務め組織的に大学教育委員会と連携するのみならず、学生アンケート等の実施組織として、重要な調査活動を行い、様々な教育改善のための提案を行っている。また、GPシーズに関する取り組みについても、審査協力等の取り組みがあった。センター運営に関しては、センターの教員が少ないため、教員全員が力を合わせている。以上、専任教員については、センター業務の中核を担う要員として、十分な活動実績をあげているものと評価する。

3. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

専任教員は2人であるが、センター全体(併任教員、特任教員、招聘教員、協力教員、客員研究員)では37人の構成員である。専任教員とともにセンター業務の大部を担う併任教員は学部選出ではなく、センター活動に貢献が期待できる教員としてセンター長やセンター教員が集めた学内教員である。従って、センターは人のつながりに基づく集団であるために組織としては脆弱ではあるが、専任教員と併任等の教員が協働して顕著な活動成果をあげ、本学の教育改善に多大な貢献を果たしている。今年度の貢献としては、「内部質保証体制の確立」、「ラーニング・ポートフォリオの全学開始」、「教員の教育における能力開発」、これらにおける当センターの支援があげられる。

当センターはこれまで、大学教育委員会と連携し、大学全体の教育改善に重要な役割を果たしてきた。その自覚が、大学全体の学生の教育や教員の支援という観点でセンター教員が努力する姿勢につながっているものと思われる。